

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和3年1月15日

協議会名:	日進市地域公共交通会議
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>日進市は名古屋市と豊田市の中間に位置し、両市のベットタウンとして発展を続けている市です。総面積は34.9平方km、人口は92,416人(令和2年12月1日時点)であり、今後も人口増加が続くと見込まれています。</p> <p>この発展を支えた背景の1つに交通網の整備が挙げられます。鉄道は、市南部に名古屋市営地下鉄鶴舞線及び名古屋鉄道豊田線の3駅が存在するとともに、市北部地区と隣接する長久手市には、東部丘陵線(リニモ)が運行しております。ただし、これらの鉄道駅は全て、市の外縁部にあるため、市中心部や住宅と結ぶための公共交通網の整備は必要不可欠です。</p> <p>また、本市の特徴として、市内に5つの大学、3つの高校がある他、大型商業施設、病院なども立地しているため、通勤、通学、通院や買い物など、高齢者だけではなく、幅広い年代の日常生活に関する多様な移動需要が存在しています。</p> <p>このような中、将来に渡って持続可能な公共交通体系を構築すること、並びに鉄道や民間バス路線と一体となった交通ネットワークを形成していくことが必要となりました。</p> <p>そこで本市では、平成27年に日進市地域公共交通網形成計画を策定、更に、平成28年に日進市地域公共交通計画再編実施計画を策定し、市内フィーダー系統の再構築を行うと共に、鉄道や民間バス路線、近隣市町の公共交通との接続を考慮した路線網の整備を実施しました。</p> <p>今後も市内全域と鉄道駅などの交通結節点を結ぶフィーダー路線網を維持していくと共に、市街地の拡大や市民生活の変化に対応した路線網の形成を進めていく必要があります。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和3年1月 日

協議会名: 日進市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両運賃償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改善補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載)】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価 【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価 【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善点は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
名鉄バス株式会社	くるりんばす赤池線	前回の事業評価について 【評価されたポイント】 ①G T F Sに対応したバス総合マップの更新について ②地元出身の声優を活用したバス車内放送による利用促進について 【対応を求められたポイント】 ③平成29年4月路線改編後の利用実態等の分析を行い、今後の公共交通ネットワークの構築 ④尾三地域が連携した広域的な公共交通ネットワークの構築 【事業への反映状況】 ①G T F Sデータの年度更新を行い、市ホームページ上のオープンデータについても更新を実施 ②車両買替により引継した車両を用い、有名声優による車内音声を使用したイベントを実施。全国から若い世代を中心に参加があった。 ③公共交通会議の基に専門部会を設置。これまでに実施したアンケート結果等をもとに、改編内容の検討を実施。 ④尾三地域の現状や課題、公共交通基礎調査の結果の分析から、今後の展開などについて協議を実施	A 事業計画どおりの運行が実施された(事業者都合による運休なし)。	B ①公費負担額(全線評価):見込146,630千円、結果168,042千円【評価B1】 ②収支率(全線評価):見込26.2%、結果23.1%【評価B1】 ③利用者数:見込124千人、結果51千人【評価C】 【分析】 名古屋市営地下鉄赤池駅と接続していることによる通勤、通学での利用、また、医療機関や大型商業施設との接続による通院、買い物等での利用頻度等が高い路線であるが、新型コロナウイルス感染症拡大によるリモートワーク、休校、利用自粛等の影響により、利用頻度が低下したと推測される。利用者数、運賃収入が減少し、それに伴い、公費負担額が増加、収支率が悪化。見込を達成できない結果となった。	くるりんばすの課題を解決するため、以下の取り組みを実施する。 ①公共交通会議、専門部会において、くるりんばす路線の部分修正案を検討 ②コロナウイルスによる利用状況の変化等を確認するため、公共交通に関するアンケートを実施 ③路線の部分修正や公共交通のあり方などに関し、市民向けの説明の方法を検討 ④オープンデータ化の普及に努めるとともに、リアルタイムデータの作成、活用等について、引き続き、産・官連携で技術推進を行い、利用者の利便性向上に努める ⑤バスの総合マップについて、小まめな情報収集を行い、継続的な更新と情報の発信を行う
	くるりんばす米野木線	【事業への反映状況】 ①G T F Sデータの年度更新を行い、市ホームページ上のオープンデータについても更新を実施 ②車両買替により引継した車両を用い、有名声優による車内音声を使用したイベントを実施。全国から若い世代を中心に参加があった。 ③公共交通会議の基に専門部会を設置。これまでに実施したアンケート結果等をもとに、改編内容の検討を実施。 ④尾三地域の現状や課題、公共交通基礎調査の結果の分析から、今後の展開などについて協議を実施	A 事業計画どおりの運行が実施された(事業者都合による運休なし)。	B ①公費負担額(全線評価):同上【評価B1】 ②収支率(全線評価):同上【評価B1】 ③利用者数:見込73千人、結果21千人【評価C】 【分析】 名鉄豊田線日進駅、米野木駅と接続していることによる通勤、通学での利用、また、医療機関やスーパーとを結ぶ通院、買い物等での利用頻度が高い路線であるが、新型コロナウイルス感染症拡大によるリモートワーク、休校、利用自粛等の影響により、利用頻度が低下したと推測される。利用者数、運賃収入が減少し、それに伴い、公費負担額が増加、収支率が悪化。見込を達成できない結果となった。	⑥引き続き、近隣自治体との連携を推進し、尾三地域が連携した公共交通ネットワークの構築に向けて協議を推進
	くるりんばす三本木線	【事業への反映状況】 ①G T F Sデータの年度更新を行い、市ホームページ上のオープンデータについても更新を実施 ②車両買替により引継した車両を用い、有名声優による車内音声を使用したイベントを実施。全国から若い世代を中心に参加があった。 ③公共交通会議の基に専門部会を設置。これまでに実施したアンケート結果等をもとに、改編内容の検討を実施。 ④尾三地域の現状や課題、公共交通基礎調査の結果の分析から、今後の展開などについて協議を実施	A 事業計画どおりの運行が実施された(事業者都合による運休なし)。	B ①公費負担額(全線評価):同上【評価B1】 ②収支率(全線評価):同上【評価B1】 ③利用者数:見込81千人、結果27千人【評価C】 【分析】 高校、大学への通学等での利用頻度が高い路線であるが、新型コロナウイルス感染症拡大による休校等の影響により、利用頻度が低下したと推測される。利用者数、運賃収入が減少し、それに伴い、公費負担額が増加、収支率が悪化。見込を達成できない結果となった。	
	くるりんばす岩崎線	【事業への反映状況】 ①G T F Sデータの年度更新を行い、市ホームページ上のオープンデータについても更新を実施 ②車両買替により引継した車両を用い、有名声優による車内音声を使用したイベントを実施。全国から若い世代を中心に参加があった。 ③公共交通会議の基に専門部会を設置。これまでに実施したアンケート結果等をもとに、改編内容の検討を実施。 ④尾三地域の現状や課題、公共交通基礎調査の結果の分析から、今後の展開などについて協議を実施	A 事業計画どおりの運行が実施された(事業者都合による運休なし)。	B ①公費負担額(全線評価):同上【評価B1】 ②収支率(全線評価):同上【評価B1】 ③利用者数:見込58千人、結果24千人【評価C】 【分析】 スーパーや公共施設など、買い物や日常生活上の利用頻度が高い路線であるが、新型コロナウイルス感染症拡大による利用自粛、公共施設の休館等の影響により、利用頻度が低下し、利用者数、運賃収入が減少したと推測される。それに伴い、公費負担額が増加、収支率が悪化し、見込を達成できない結果となった。	
	くるりんばす循環線	【事業への反映状況】 ①G T F Sデータの年度更新を行い、市ホームページ上のオープンデータについても更新を実施 ②車両買替により引継した車両を用い、有名声優による車内音声を使用したイベントを実施。全国から若い世代を中心に参加があった。 ③公共交通会議の基に専門部会を設置。これまでに実施したアンケート結果等をもとに、改編内容の検討を実施。 ④尾三地域の現状や課題、公共交通基礎調査の結果の分析から、今後の展開などについて協議を実施	A 事業計画どおりの運行が実施された(事業者都合による運休なし)。	B ①公費負担額(全線評価):同上【評価B1】 ②収支率(全線評価):同上【評価B1】 ③利用者数:見込69千人、結果43千人【評価B2】 【分析】 日進駅と病院、公共施設、乗継拠点である市役所を接続することによる通院、日常生活上の利用頻度が高い路線であるが、新型コロナウイルス感染症拡大による利用自粛、公共施設の休館等の影響により、利用頻度が低下したと推測される。利用者数、運賃収入が減少し、それに伴い、公費負担額が増加、収支率が悪化。見込を達成できない結果となった。	

A : 年間目標値を達成できたもの

B1 : 年間目標値は達成できなかったものの、目標値の75%以上のもの

B2 : 年間目標値は達成できなかったものの、目標値の50%以上のもの

C : 年間目標値の50%未満のもの